

登録コード	EKG12900	開講年度	2026		
授業科目	特別なニーズのある子どもの心理学				担当教員 下山 真衣 他
英文授業名	School psychology for children with special needs				副担当 上村 恵津子・茅野 理恵
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期
講義室		授業形態		備考	履修学年 1,2年生
信大コンピテンシー	非該当				
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				【授業の達成目標】
	2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ, 2 4 E Aカリ				
	教育の専門職としての学識・技能				障害のある児童生徒の心理に関して専門的に説明ができ、学校心理学的視点から児童生徒への援助を検討することができる。
	子どもの多様なニーズへの対応力				特別支援教育の知識から子どもの実態把握やニーズを見出すことができる。
	2 4 E Aカリ				
	協働的な問題解決を可能にする人間関係構築力				ディスカッションを通して、他者の意見を取り入れながら子どもへの援助について考えを深めることができる。
(2)授業の概要	特別支援学校は、地域において特別支援教育を推進する体制を整備していく上で、中核的な役割を担うことが期待されている。特に、小・中学校に在籍する障害のある児童生徒について、通常の学級に在籍するLD・ADHD・自閉スペクトラム症等の児童生徒を含め、その教育的ニーズに応じた適切な教育を提供するために、特別支援学校の教育上の高い専門性を生かしながら地域の小・中学校を積極的に支援していくことが求められる。そこで、本授業では、特別支援教育と学校心理学の知識と技能を身につけ、地域の小・中学校の教員に対する相談業務やコンサルテーション、教員の心理的健康の実践について事例から学んでいく。				
(3)授業計画	第 1 回：障害のある児童生徒と学校心理学 第 2 回：心理教育的援助サービスの方法 障害のある児童生徒のアセスメント 第 3 回：心理教育的援助サービスの方法 学校やクラスのアセスメント 第 4 回：心理教育的援助サービスの方法 学校カウンセリング 第 5 回：心理教育的援助サービスの方法 学校コンサルテーション 第 6 回：心理教育的援助サービスの方法 チーム援助 第 7 回：援助の実践 通常の学級における支援 第 8 回：援助の実践 通級・特別支援学級における支援 第 9 回：援助の実践 特別支援学校における支援 第10回：演習 事例検討 学習障害 第11回：演習 事例検討 ADHD 第12回：演習 事例検討 自閉スペクトラム症 第13回：演習 事例検討 複合的ニーズのある児童生徒 第14回：まとめ 定期試験				
(4)成績評価の方法	課題レポート（40％）と演習による発表（30％）に関わる討論（30％）によって、専門的で新しい知識を説明し、実践的課題に対する授業改善や教材開発、校内コンサルテーションについて課題検討の深化と学校教育の現場への教育と支援の応用の提案ができていくかについて評価する。				
(5)履修上の注意	事例での討論を行うため、障害のある児童生徒や保護者、教員への心理支援について積極的な関心を持って参加する必要がある。相談等がある場合はメールで対応する。研究室訪問は常時受け付けるが、なるべく事前に訪問日時を相談すること。				
(6)質問、相談への対応および連絡先	研究室訪問は常時受け付けるが、なるべく事前に訪問日時を相談すること。 下山のメールアドレス：mshimoyama@shinshu-u.ac.jp				
(7)成績評価の基準	専門職としての学識・技能、子どもの多様なニーズへの応用力、柔軟な発想力に関して評価する。 『合格水準にある』に関する説明、の検討、に関して発表ができる。 『やや上にある』に関する説明、の検討、に関して、レポートの作成、発表ができる。 『かなり上にある』に関する説明、の検討、に関して、根拠に基づきレポートの作成、発表ができる。 『卓越している』に関する説明、の検討、に関して、根拠に基づいた具体的なレポートを作成し、発展的な展望を示せる。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可。				
(8)事前事後学習の内容について	・授業時間以外に情報収集、課題の検討、発表資料の作成をし、授業で担当教員とさらなる検討が可能となるよう準備を絶えず続けること。 ・授業の終わりに次回授業の予告とともに事後学習の復讐の範囲と事前学習範囲を指示するので、その範囲について、専門用語の定義の確認を行い、先行研究の収集と熟読をすること。そのため、予習と復習には毎回1時間以上の時間を自主学習に当てる必要が出てくる。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。				
【教科書】	学校心理学ガイドブック第4版 学校心理士認定運営機構 編 風間書房発行 ISBN:4759922989				
【参考書】	よくわかる学校心理学 ミネルヴァ書房 ISBN:4623063968				